（郵便局認可）

時事新報

第千五百三十九號　金曜日
明治二十年三月十八日
舊丁亥二月廿四日（壬午）
日出午前六時九分　日入午後六時零八分
月出午前二時零三分　月入午後零時二十五分
滿潮午前[illegible]　午後零時零二分
（西曆一千八百八十七年）

（日曜日休刊）　（定價金二錢）

時事新報

士人處世の道甚だ易し

今の日本の社會に於て後進の士人が立身の道を官途の一方に限りて以てその榮進出世に奔走すればこそ世間[illegible]不如意なるが如くなれども斷然そ[illegible]以て處世の方向を求むるとき[illegible]を容るゝ[illegible]餘地なきを患へず海外に[illegible]其事尤も壯快にして[illegible]士人が愈[illegible]るの勇ある[illegible]海外に[illegible]でもなく即刻に[illegible]つる[illegible]なきのみならず全体即時[illegible]の風化に浴し文明の今の士人は文明の教育[illegible]年來封建士族の男子を以て自から居る者な[illegible]遺習今尚は脱すると能はず高尚の氣[illegible]容易に折れ難くして職業の撰り嫌ひをなし是樣の業は卑賤なり我々の手にすべきものにあらず彼樣の業に從事しては士人たるの品格を落すに至る可しなど云ふ氣風にて却て近く[illegible]求むるの術を講せず果ては大聲不平を鳴らして人[illegible]の極に至る者なきに非ず其志の尚きは[illegible]に就て見れば無氣力[illegible]云ふ[illegible]なき心掛にて[illegible]到底[illegible]の留ある可ら[illegible]ては固より海外移住を説かざるのみならず寧ろ其思ひ止らん事を勸告するものなり抑も外國行の目的は何れの邊に在るやといふに海外自由の郷に移住して一身獨立の生計をなす爲なれども徒に金錢なくして身の獨立の出來ざるい日本[illegible]なる所なくして取分け西洋諸國は金錢の國なれば之を貴重すると日本の比にあらず隨て之を得るの困難なるも亦日本と異なる所なし唯その方は日本にては金錢を得る爲に働んとしても[illegible]働くべき仕事なきに其反對に西洋にては仕事れ多くて唯働きさへすれば金錢を得るに難からざるの相違あれどもろの仕事の種類は種々樣々にして而も骨の折れ[illegible]ことは日本と相違なきのみならず寧ろ一層甚しき[illegible]とあれば[illegible]ある者が斯る劇しき地方に行きて[illegible]儲けて身の獨立を謀るなどは迚も覺束なき次第[illegible]なれば外國行なとは先づ見合せたる方然る[illegible]可しと[illegible]せざるを得ず左れば士人立身の要は唯ろの[illegible]身の強[illegible]如何に在るのみ苟も[illegible]なる者は其身の外國に行きて內國に居るを問はず迚も身を起すの道なきこと[illegible]するの外なき故に今の士人が一旦大に悟りて[illegible]に身を[illegible]するに於ては日本れ社會狹しと雖も獨立れ生計取てなし難きにあらず此頃東京の市中に夫婦連れにてパンを賣る者あり男は古びたるフロックコートを着し高き黒帽を戴きてパンの入りたる籠を肩にし婦人も同じく洋服れ出立に三昧線を携へて街上を徘徊しパンを買ふものあれば夫踊り婦彈じて興を添ふる其有樣れ面白さに滿街の見物[illegible]ふて之を買ふを以て日々利する所頗る少なからずといへり社會の仕事は樣々にしてその種類も亦少なからざ一旦これに聰して[illegible]もせず[illegible]の小技パンを賣るの業以て夫婦二人の口を糊して立派に獨立し俯仰恥るなきれ生計を得べし堂々たる文明の士人自ら誇て學術技藝に富むと稱しながら實際世に處するの道に於てはパン賣にだも如かずと云ふは我輩の甚だ了解に苦しむ所なり若しパンを賣るの業は甚だ卑賤にして士人のなすべき仕事にあらずと云はゞ如何なる性質れ業を以て士人に適當したる仕事なりとなるか彼の一年三百六十五日大祭日曜の休日を除き午前幾時より午後幾時まで一日幾數時間、食事喫烟の外終日役所に出頭して簿書の中にろの頭を沒する者を見るに僅々數百數十圓の月給に仰て長官に事へ伏して妻子を養ひ外に出でゝは交際勉めざる可らず內に在ては門戸張らざる可らず腰骨漸く屈して宿志未だ伸びを頭髮既に白くして前途猶は暗く年の暮、免非の沙汰と免れたるは猶ほ天幸に屬す何ぞ況んや昇等榮轉の恩命をや敢て望む所にあらざるなり官員の勤めも亦勞せりと云ふ可し之を彼れ街上のパン賣が夫妻相伴ふて市中を徘徊しパンを賣りて錢に換へ自由の世界に獨立の生計をなすものと比較すれば貴賤勞逸ろの孰れに存するを知るべからず然るも猶は世れ士人は彼を捨て是を取らんと欲するか何ぞ其度量の狹くして心事の卑しきや我輩れ之を稱して器品、パン賣にも及ばざるものなりと云はんと欲するなり抑も社會れ廣く仕事れ多し獨立獨歩の業何ぞ獨りパンを賣るに限らんや大小の職業求めて得られざるものなく商工れ事企てゝ起らざるものなし成否は唯ろの局に當る士人の身構へ如何に在て存するのみ海外の移住に適せざる者は內國の職業にも堪へず內國の業に堪る者は海外の移住にも當る可きものなり

雜報

○彈丸破裂餘聞　去る四日長崎縣下滬島にて破裂彈の爲め負傷せし七名の內重傷危篤に係る池田常太郎、川尻茂作、井上チチの三名は同七日長崎病院に入院し翌八日院長致員立會の上夫々手術を施こしたるが就中チチは兩足を切斷し、常太郎は右足を切斷したり右施術れ際米國旗艦マリオン號同艦隊オマハ號乘組醫官三名は現場に立會ひ其創傷の慘酷にして負傷者の苦悶するを傍觀に堪へざりけん即座に懷中より金若干を惠與し又去る九日午前同港居留地の米人シヤッフエルド婦人及スミスホテル孃の兩名は同病院に到り親しく負傷者の蓐牀に就て病苦を勞はり美麗なる草花數種とソツプを惠與されるは奇特の事といふべしと去る十日長崎發の通信に見ゆ

○英商支那貿易を計畫す　英國にて名のある商人にして嘗て支那貿易を企てたることのなき人々が支那國にて今より數年の內には金儲けの好機會の起るべきを信じて追々に支那貿易に手を出さんと計畫し居れりと倫敦支那テレグラフ新聞に見へたり

○破裂藥　佛國にてメリナイトと云へる破裂藥を製することを發明したりとの事は此程の本紙上に記載したるが英國のディリーニウスの記載する所に據れば佛人は近頃發明したる破裂藥メリナイトは恐るべき破裂力を有するものなりとて頗りに誇り居る趣なれども獨逸にては之に就ては何たる評判もなく今度獨逸にて發明したるロビユラィトと名付る破裂藥は其力は佛國新發明の破裂藥よりも強さよしたも製法れ秘密にさるゝのみとあるが此破裂藥は強き熱を以てのみ破裂し少しも火花を放つことなきも城壁は勿論山をも震動せしむると云へり

○約定履行請求事件　橫濱居留地五番館商人フォンメルト氏より大藏省印刷局事務長一川研三氏に係る印刷物約定履行事件訴訟は嚢に大審院の破毀により大坂控訴院へ移されしが右は十時評定官の係りにて來る二十日迄に出頭すべき旨先頃原被兩造へ達したるを以てフォン メルト氏は東京組合代言人增島六一郎氏に依賴して同件を擔任せしめたる處增島氏は當日迄に出廷すると能はざればとて更に高橋多美江氏を代人として大坂に差越し去十二日右高橋氏より來る廿五日まで出廷の延期を同院に請願せしに直ちに聞届けられたるに付同日迄には增島氏並に一川氏の代言人なる岡山兼吉氏も大坂に到る筈なりと去十三日の內外新報に見ゆ

○勸業試驗場　福岡縣にては此程農學校と廢止して勸業試驗場と爲したるに付更に縣費を以て生徒數名を近々東京農林學校へ入學せしむるといふ

○朝鮮遊覽日誌（慶尙道の續き）　井上角五郎

金海（昌原府より朝鮮里法凡そ六十里）

金海府領は慶尙道內の平原沃野なり西は熊川昌原兩地に隣し北れ三叉河を以て梁山東萊兩地に界し南東れ海に至りこゝに鳴旨島あり大に且つ名あり東西凡そ五十里南北凡そ八十里（みな朝鮮里法を以て計算しその十里はわが一里に當たるみと前文常に用ゆる里法に異ならずこれより以下亦た同し讀者或は誤を致すを恐れてこゝに再記するのみ）領內は一山の東西に延きて脉をなすあまそれ餘を平坦にして田圃多くされども近年凶作水災相尋ぎ半ば荒蕪となり山陵また樹木なく余をして慨慨措く能はざらしむ蓋し余が京城を出でゝ以來は途中到る處にコレラ死屍を積み重ねて未だ葬式となさゝるに出逢はざるなく又た家屋の空廢となれる者田圃の荒蕪となれる者は相屬して常に何故に如此く空廢し又た荒蕪するかと疑はしむ故に各地に至り人口を調査するに漸々減少の傾向なる者十中八九とし餘一二も亦た速に人口を增加するにあらず而して余は鎭海縣にての人口の最も多く減少してそでに原數れ二分一となり家屋の空廢田圃れ荒蕪特に甚しきと見え昌原府は左まで甚しからず然るに金海府に至り鎭海縣より一層甚しきを感せりこれを士民に聞くに慶尙南道みな然りと云ふこと天災地異の致すところ實に止むを得ざるとは云ひながら施政の如何に由ること少なからず世の經國れ任に當たる者實くはこれに鑑みて可なり

三叉河は遠く慶尙南道の諸水を集め一は尙州洛東江となり一は晉州南江となり其兩流の相合すると三叉河とす金海府領の東北角に至つて三分しその間に二島をなす故に三叉河と名づく凡そ四十里にして相合するゝに鳴旨島あり蓋し所謂三角洲なるんこの處より上流百五十里を尙州々邑とし二百五十里を晉州兵營とす晉州兵營には小舟小楫と卒れに通ずるに過ぎざれども尙州々邑にはやゝ大舟大楫を通ずべくその上をなは二百五十里を溯るべしと云ふ慶尙南道れ物貨この河流に由つて釜山港に輻輳する者多し鳴旨島は魚鹽の利益多く舟楫常に碇泊しやゝ繁昌せりそれ地下常に大聲あり孤なきに波浪りと疑ひ雲なるに雷鳴かと思はる故に鳴旨島と稱す實に一奇なり三叉河中れ二島は一は金海府に屬し德島と云ひ一は梁山郡に屬し大旨と云ふ鳴旨島より東方四五十里にして釜山港あり釜山港に及ばざる僅かにして薩摩濠と稱する運河あり元と釜山港西は突出して絶影島に連續す故に鳴旨島より釜山港に至るには絶影島外を航せざるべからずその里程は二三百里に近からん然るに豐太閤の此國を攻むるとき島津家の手勢は休戰に際し勇氣の衰へんことを思ひこの運河を鑿ちたれば名づけて薩摩濠と云ひいまその功德に由つて運輸れ便利少なからずと云ふ當時薩摩の兵士は釜山港より海岸に沿ひ晉州までと警固せしに由りて倭城中薩人れ手に成る者少なからずみな堅牢宏壯なり薩人は右皆すでに勇壯なりしと想ひ見るべきなり

府領は十八面に分ち物產は米麥木綿魚類などなり[illegible]